

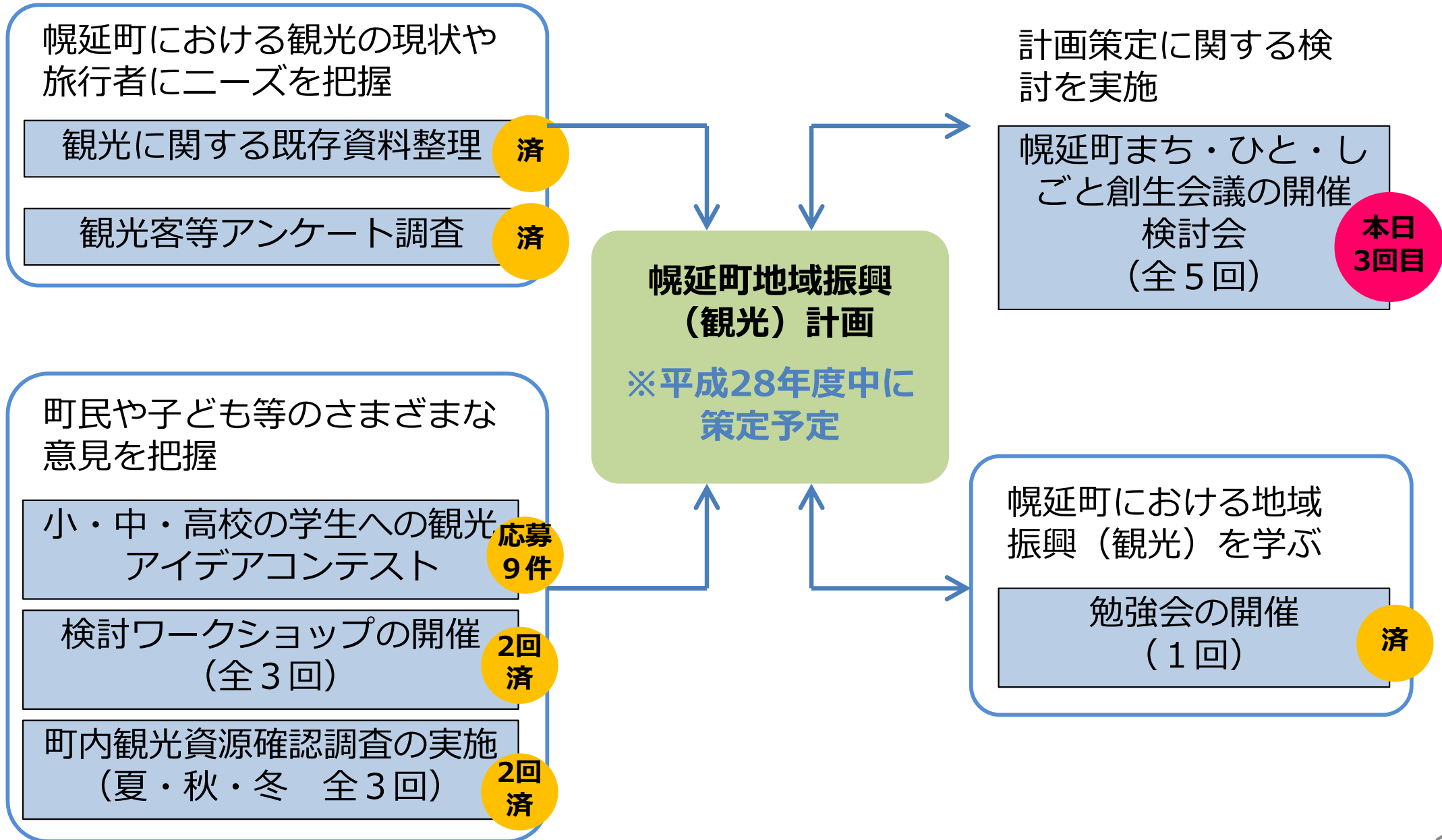
幌延町地域振興(観光)計画に 関する調査について

平成28年12月21日

幌延町地域振興(観光)計画策定 検討ワークショップ

2. これまでの調査等について

<幌延町地域振興（観光）計画策定に関わる調査等>



2. これまでの調査等について

第1回 幌延町まち・ひと・しごと創生会議 「幌延町地域振興（観光）計画」検討会

日時：平成28年6月22日（水） 午後6時30分～
場所：幌延深地層研究センター国際交流施設

第2回 幌延町まち・ひと・しごと創生会議 「幌延町地域振興（観光）計画」検討会

日時：平成28年10月14日（金）午後6時30分～
場所：幌延深地層研究センター国際交流施設



第1回 検討ワークショップ

日時：平成28年7月6日（水） 午後6時30分～
場所：幌延深地層研究センター国際交流施設

第2回 検討ワークショップ

日時：平成28年10月28日（金） 午後6時～
場所：幌延深地層研究センター国際交流施設



2. これまでの調査等について

観光資源調査（夏期）

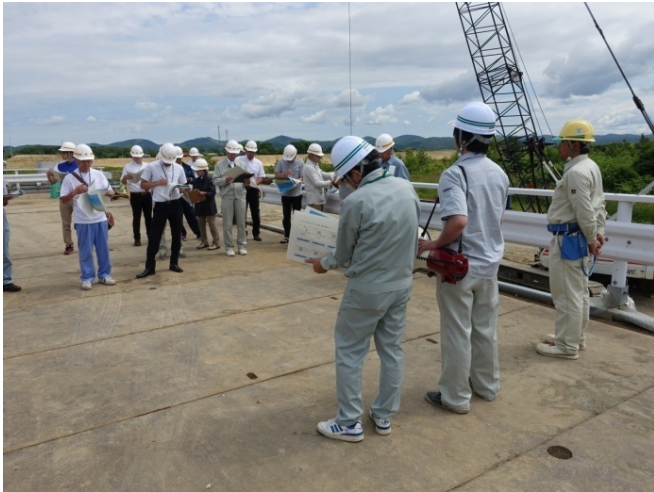
日時：平成28年7月21日（木） 午前10時～午後3時30分

調査箇所

天塩大橋の架け替え現場／トナカイ観光牧場（昼食含む）

オトンルイ風力発電所／幌延ビジターセンター

下沼湧水／パンケ沼 ※午後は自転車調査班有



幌延町の観光に関するアンケート調査

日程：平成28年8月13日（土）

～ 8月14日（日）

場所：名林公園まつり会場

トナカイ観光牧場

幌延ビジターセンター



2. これまでの調査等について

小・中・高校生への観光アイデアコンテスト 「おいでよ！ほろのべアイデアコンテスト」

応募資格：幌延町在住の小学生・中学生・高校生

締め切り：現在、追加募集中

応募内容：イラスト、作文、レポート

表彰：・グランプリ／・準グランプリ
・ブルー賞（審査員特別賞）

観光資源調査（秋）

日時：平成28年10月22日（土） 午前9時～午後2時

調査箇所

糠南駅／北大天塩研究林／知駒／問寒別駅／車窓からの風景等



応募賞品もご利用!
幌延町商品券1万円分
+ 合贈品、その他

おいでよ！ほろのべ アイデアコンテスト

人が集まり、楽しい「ほろのべ」を目指して

現在、幌延町では「観光と地域振興」に関する計画づくりを行っています。幌延町には、トナカイ観光牧場や幌延ビジターセンター等の観光施設やオトンルイの風車、サロベツ温泉、パンケ沼等の風景などいろいろな資源がありますが、訪れる観光客は少ない状況です。これから幌延町にたくさんの人に来てもらうために、遊びに行きたくなる幌延町、楽しい幌延町を目指すため、アイデアを募集します。これを機会に、自由にアイデアを考えてみませんか？

応募資格 幌延町内在住の小学生・中学生・高校生

応募内容 応募用紙に、氏名、住所、学校名を記載し、作品は原簿式封筒、メール等にて応募ください。応募用紙は、町民センターで配布しています。
<http://www.town.horobetsu.hokkaido.jp/>
※小学生以下の方の参加は、保護者を必ず併せてお申し込みをお願いします。

表彰
・グランプリ[1本]
幌延町商品券1万円分+合贈品+その他
・準グランプリ[1本]
幌延町商品券5千円分+合贈品+その他
・ブルー賞（審査員特別賞）2~3本
幌延町商品券3千円分+合贈品+その他

イラスト・作文・レポート

作品の送付・お問い合わせ先 幌延町産業振興課 担当：角山 [e-mail] kikaku@town.horobetsu.hokkaido.jp
〒098-3207 幌延町京町1丁目1 ■電話:01632-5-1113 ■ファックス:01632-5-2971

開催期間：2016年9月9日（金）～9月30日（金）



2. これまでの調査等について

①目的

これからの幌延町の賑いの創出やまちづくりを考えるきっかけとして、地域活性化や景観の活用、道の駅に関する専門家を招いて講演会を開催。

②日時

平成28年10月4日(火)

18:00~20:45

③場所

幌延深地層研究センター国際交流施設
1階多目的ホール

②講師

国立研究開発法人土木研究所
寒地土木研究所地域景観ユニット
統括主任研究員 松田 泰明氏

株式会社オフィスいわい
代表取締役 岩井 護氏

④参加人数 67名



3. 第2回 「幌延町地域振興(観光)計画」検討会 結果概要

①目的

幌延町地域振興（観光）計画についての検討を行うために、観光関係者など多様な主体が参加する検討会を開催。

②日時

平成28年10月14日（金）18：30～20：00

③場所

幌延深地層研究センター国際交流施設1階多目的ホール



<結果概要>

- まず何かやってみるのがよいのでは。町内でフリーマーケット等を開催してみてもどうか。
- 道の駅については、そこに停まった人たちを町の中へ呼ぶ導線が重要と思う。
- バイパス付近に、道の駅と併せて川も駅も作るとよいのでは。
- 道の駅ができるのであればアイス等を売れるとよい。町内の酪農家でアイスを売れる人も多い
- 最近のトナカイ牧場は雰囲気も良くなり、若い人も行けるのではないか。
- 他の町村にないトナカイ牧場というカードを持っているが、生かしてきていない。
- 合鴨は町内で使われているが、トナカイ肉の缶詰はほとんど売られていない。
- 町の観光大使の井上仁志さんをもっと活用できないか。
- 幌延市街地方面に資源等が多いため、問寒別方面の魅力等を掘り起こしていきたい。
- 子供には親が付いてくるので子供をターゲットとするのもよいと思う。

4. 第2回 検討ワークショップ 結果概要

①目的

幌延町地域振興（観光）計画に一般町民等の意見を広く取り入れるとともに、幌延町地域振興（観光）計画について、理解をして頂くために検討ワークショップを開催。

②日時

平成28年10月28日（金） 18:00～20:00

③場所

幌延深地層研究センター国際交流施設 1階多目的ホール

④参加人数 21名（参加者名簿 右記）



まちの特産品

長濱さん	伊山さん
高橋さん	藤井さん
花村さん	小田島さん

まちの拠点

野上さん	若月さん
星野さん	中野さん
久保田さん	西澤さん
丸田さん	

観光によるまちづくり

畠山さん	山下さん
村上さん	遠藤さん
藤澤さん	番坂さん
大内さん	吉原さん

4. 第2回 検討ワークショップ 結果概要



	取り組み	課題
牛乳	<ul style="list-style-type: none"> ・牛乳（シンプルに飲みたい） ・バターを使って銘菓とコラボ ・北海道乳製品メーカーとの連携 ・牛乳豆腐をお店で提供 ・牛乳寒天など幌延らしさを出して 	<ul style="list-style-type: none"> ●牛乳の産地をどうするか？ → 幌延牛乳ブランド化 → 第三者の評価 ●牛乳豆腐は初乳じゃないとできない・時期限定 ⇒ 酪農家が自らの名前で出す
湧水	<ul style="list-style-type: none"> ・下沼湧水を使った豆腐・酒 ・下沼の湧水を町内の飲食店で使用する（お冷） 	体に良い水は売りになる
トナカイ	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャーキー（トナカイ・カモ） ・産地としてこだわる ・トナカイ肉の再利用（トナカイ肉とフキ、タケノコのいためたものをジンロックで） ↑ サンタさんの乗り物なので食べなくても良いのでは 	<ul style="list-style-type: none"> ●トナカイの増頭 → 使うなら増やす 個人経営のため中々厳しい → 飼育環境の充実 販売店はどこか・実行者は誰か 加工・生産する施設 ⇒ やるなら本気で！
カモ	<ul style="list-style-type: none"> ・合鴨のハム 	合鴨増頭
野菜	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の生産地となる 	有機野菜の売り方 有機野菜に興味のある若者が増えている 何らかの方法で地元を引き込む

- 今欲しいものは？ → ●道の駅（的な機能を持った施設）
（10：00-20：00開館 or 9：00-21：00開館など夜も使えるように）
 - 観光案内所・情報館
 - 車中泊可の駐車場
 - トイレ（増設・きれいであずましいトイレ）
 - Wi-Fi（駅などに設置）
 - おいしいレストラン（食堂）
 - 屋台村・出展ブース
 - 広い温泉
- 町民が集まれる場
→ ・幌延の昔話をお年寄りから話を聞ける場・場所
・同じ趣味を持つ人が集まる場所
- 楽しいメニューの充実
 - ・トナカイを使った体験（聖地サンタの里）
 - ・トナカイ観光牧場をワンピースの物語に関連付ける
 - ・トナカイにキャラ付け！
 - ・多様な方に向けた天体観測
- 地元のボランティア
 - ・トナカイ牧場の花のメンテナンス
 - ・川のクリーンアップなど
- 幌延の拠点って何？ → 誰に対しての拠点？（町民or観光客？両方？）
 - ・ビジターセンター
 - ・トナカイ牧場
 - ・役場
 - ・三日月湖付近
 - ・天塩川川の駅
 - ・国道（R40）

⇒ **今あるものを活かして！**

	既存観光の磨き上げ	自然資源を活用した体験型観光	新たなツーリズムの創出
アイデア	<ul style="list-style-type: none"> ● 受入施設 受け皿整備 ホテル（ベッドトイレ付）・ タクシー・バス・快適性のある トイレなど ● トナカイ牧場 肉を食べたい 赤ちゃんの成長記録 命名権 トナカイ乗り（子供がターゲット） ワンピースのチョッパーの世界観 を再現（桜並木など） 北欧的な町づくり サンタクロースの資格を取る トナカイ牧場の説明 ゆめ地層館来訪者 ● ノースガーデン 角細工増産・出品 青いケシの種を欲しがると多い エキス抽出 ※まずトナカイ・花の整備！ 新しいことはしなくていい ※課題：観光の組織化 	<ul style="list-style-type: none"> ● サロベツ湿原 サロベツ湿原の遊歩道の整備 ガイド育成 花暦 星空体験 鳥屋さん取り組み ナイトハイク 自然資源の情報発信 （花・動植物の風景） ● ツアーの提案 渡り鳥観察ツアー（春・秋・冬） 水資源ツアー （湿原・サロベツ川・湧水） 環境保全ツアー （木道の修繕・沼の清掃・湿原の笹刈・ ヘルスツーリズムなど） ● 北大研究林 探検的な子供向け学習 コザクラ 山菜体験・食事会 ※課題：個人ガイドの育成・組織化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 湿原ツアー サロベツ原野センチュリーライド （自転車）の開催 コース：幌延→豊富→風車→ビジ ターセンター ● 景観 夕（ゆう）カフェ ※ビジターセンターにある展望台の 上で喫茶店を開く。夕日を眺める。 稚内の朝カフェ⇔幌延⇔豊富 ● 秘境駅ツアー JR下沼駅で喫茶店 下沼駅カフェ （湧水コーヒー・山菜料理） ● 鉄人（鉄道ファン）と地域住民の交 流（鉄道イベントと複合で） （コスモス・キク芋育成・山菜体験・ 除雪かまくら） ● 鉄・折りたたみ自転車輪行 駅近くのスポットで釣り・名所めぐ りなど細微化
ターゲット	町民が楽しめて観光の方も楽しめる まず町民 アジア系外国人・本州の人	町民が自然資源を知る機会を作る	サイクリスト 道内の人 鉄道愛好家
担い手	受け皿がない・仕組みを作るのは誰？ 町民からけしかける！ 強烈的なキーマン 実行部隊・企画部隊 観光協会に専任スタッフがない	ガイドの育成 ガイドの常駐 北大研究林認定ガイド サンタ（120kg以上）	歩道整備ツアー まずは何か一発！ メディア

幌延町地域振興（観光）計画骨子 たたき台

1. 計画の概要

1-1. 背景

- ・ 幌延町は、平成9年に幌延町観光振興計画～幌延“わくわくフロンティア N45° ”構想～を策定し、観光振興の取組みを展開。
- ・ 近年では、旅行形態が団体型から個人・家族型へ変わりつつあり、さらに訪日外国人観光客が急増するなど、観光を取り巻く環境は大きく変化している。
- ・ 幌延町は、平成22年4月に宗谷管内に再編され、同年に幌富バイパスが開通。平成31年頃には、天塩大橋の架け替えとともに、幌富バイパスの取り付け道路が完成する予定となっており、宗谷地域を訪れる観光客等の移動経路が大きく変わることが想定される。
- ・ 平成24年度における幌延町の観光入込客数は約12万人で、これを平成31年度までに観光入込客数を13万人（総合計画）、また、トナカイ観光牧場入場者数を5万人（総合戦略）、鉄道関係の観光入込客数を5百人とすることを目指している。
- ・ 総合計画や創生総合戦略の目標を達成するためには、変化する社会情勢の中、多様な観光ニーズに対応し、幌延町らしい地域振興（観光）計画を策定する必要がある。

1-2. 位置づけ

- ・ 幌延町総合計画の下位に位置づけられるもので、本町の地域振興（観光）施策の指針となる計画である。

1-3. 計画期間

- ・ 総合計画の見直しに対応するように、本計画の見直しを行うこととする。

<幌延町総合計画及び幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間>

計画名	年度													
	H29 2017	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2020	H34 2021	H35 2022	H36 2023	H37 2024	H38 2025	H39 2026	H40 2027	H41 2028	
総合計画	第5次 幌延町総合計画			第6次 幌延町総合計画（予定） 前期										後期
創生総合戦略	幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略													

2. 幌延町の特性と課題

2-1. 幌延町の現状

- ・ 幌延町は、フランスのボルドーやイタリアのミラノとほぼ同緯度の北緯45度線上に位置し、広大で豊かな自然に恵まれたまちである。
- ・ 主な観光資源として、トナカイ観光牧場、青いケシ（ブルーポピー）、幌延ビジターセンター（利尻礼文サロベツ国立公園）、金田心象書道美術館などがあるほか、まちの総面積の6割以上を占める天塩研究林をはじめとした森林資源や町内に点在する水資源（湧水）など自然資源も豊富に

存在している。

- ・ 主な食資源として、まちの基幹産業である酪農業から生産される生乳や町の社会福祉法人で飼育・加工されている合鴨製品、豊かな自然の恵みである山菜などがあげられる。
- ・ イベントは名林公園まつりやおもしろ科学館、トナカイホワイトフェスタなどが開催されている。
- ・ 平成9年にトナカイ観光牧場のマスコットキャラクター「ホロベアー」、平成23年にはブルーポピーの妖精「ブルピー」がまちのマスコットキャラクターとして誕生し、まちや観光のPRを行っている。
- ・ 平成27年6月にTHE TON-UP MOTORSのギタリストである井上仁志氏が幌延町の観光大使に就任し、音楽活動を通じて幌延町を盛り上げ、PRしている。
- ・ 近年では秘境駅等の鉄道資源を活用したイベントの開催や地域振興、トナカイの角を活用した地域特産品開発も行っている。

2-2. 幌延町の課題

- ・ 幌延町は平成26年度の延べ宿泊者数が約12万人であり、稚内市の4分の1程度で、管内では中頓別町の次に少ない。
- ・ 北海道や稚内市の外国人宿泊客数は増加しているが、幌延町は0人である。
- ・ トナカイ観光牧場の施設利用者は減少傾向にある。
- ・ 幌延町民へのアンケート調査におけるまちのお勧めの場所として、トナカイ観光牧場やオトンルイ風力発電所が挙げられた。また、今後の観光に期待することとしては、PRの強化等による認知度向上、既存観光施設の活性化、新たな資源・特産品の開発などが挙げられた。
- ・ 観光客へのアンケート調査では、来訪者の消費額は、5,000円以下が半数以上であった。今後求められるサービスは、道の駅と入浴施設が多く、幌延町の魅力としては、「トナカイ」が最も多く、次に「自然が豊富・きれい」であった。
- ・ 課題としては、魅力となりうる地域資源が点在しているが、観光客に提供できるコンテンツとしての磨き上げが不足している。また、幌延町の魅力を対外的に発信する発信力が弱いことがあげられた。
- ・ 観光によるまちおこしを継続的に取組むためには、まちが一体となった推進体制の構築が不可欠である。

3. 幌延町地域振興（観光）計画の基本的考え方

3-1. 基本理念

- ① “観光振興”を通じてまちが潤い・元気になる
- ② “幌延にしかない”貴重な体験・経験を提供し、幌延ファンを増やす
- ③ “立地”を活かし、宗谷地域を訪れる観光客のゲートウェイ（関所）となる
- ④ “クリーンエネルギー”を生産・研究するまちとして、観光と環境の共存を目指す
- ⑤ “町民みんなが活躍”することで、人口減少に負けない観光まちおこしを実現する

3-2. 目指す姿

※会議にて検討して頂きます。

3-3. 目標の設定

- ・ 本計画は、幌延町総合計画及び幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略の観光に関する目標値を達成することと目標とする。

< 幌延町総合計画及び幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた目標値 >

記載されている計画名		指標	平成31年度目標
総合計画	創生総合戦略		
●		観光資源に恵まれたまちと思う人の割合	18%
●	●	観光入り込み客数	130,000人
●	●	トナカイ観光牧場入場者数	50,000人
	●	鉄道系観光客数年間	500人

4. 地域振興策

4-1. 基本戦略と主要施策

基本戦略	主要な施策	
①既存観光施設の 魅力向上	施設名	施策
	トナカイ観光牧場	①-1 観光客受入環境整備の推進 ①-2 トナカイのイメージを活かした演出(サンタの里、ワンピースとの連携等)
	ノースガーデン	①-3 美しく花を見せる花壇の整備
	幌延ビジターセンター	①-4 自然を体感できるメニューの開発と提供 ①-5 木道等の環境整備
	オトノルイ風車群	①-6 クリーンエネルギーや風車を体感できるメニューの開発
②雄大な自然資源の活用	②-1 北大天塩研究林を活用した教育型プログラムの開発と提供 ②-2 四季に応じた体験メニューの開発(山菜、鮭の遡上、バードウォッチング等)	
③幌延らしい新しい観光の創出	③-1 秘境駅等の鉄道資源を活用した観光振興 ③-2 サイクリングやカヌー、フィッシング、徒歩等の※クワイエットスポーツによる観光振興 ※エンジンなどの動力に頼らず自然の中で、騒ぎたてることなく穏やかに楽しむスポーツ	
④幌延町と宗谷地域のゲートウェイ(関所)となる拠点の整備	④-1 町民や多様な旅行者が集う拠点 ④-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点 ④-3 道や川など多様な移動の拠点となり、まちと宗谷地域のゲートウェイ(関所)となる拠点	

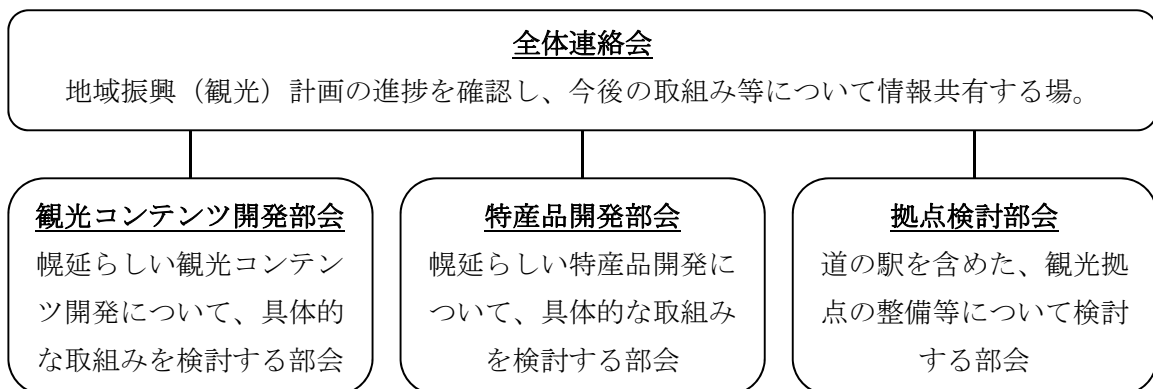
基本戦略	主要な施策
⑤地域特産品の開発	⑤-1 幌延産牛乳のブランド化や幌延産牛乳の商品開発 ⑤-2 トナカイや合鴨の生産強化及び新たな商品の開発 ⑤-3 冷涼な気候を活かした有機野菜の産地確立 ⑤-4 湧水の活用
⑥情報発信の強化	⑥-1 動画等による情報発信の強化 ⑥-2 観光大使による情報発信の強化 ⑥-3 町内飲食店の情報発信の強化
⑦幌延らしい滞在メニューの開発	⑦-1 豊かな自然を身近に感じるキャンプ場の利活用 ⑦-2 酪農を体験する農家民泊の実施
⑧冬の賑わい創出	⑧-1 アイスキャンドル等による官民連携イベントの開催

※各種調査結果と基本戦略・主要な施策の関係表は別紙参照

5. 推進体制

5-1. 推進体制

- ・ 計画の推進にあたり、観光に関係する組織や団体、農業者、商工業者、町民、行政等、幅広い主体が連携し、それぞれの役割に応じて連携・協働することが重要である。
- ・ 推進体制を設けて計画を推進する。

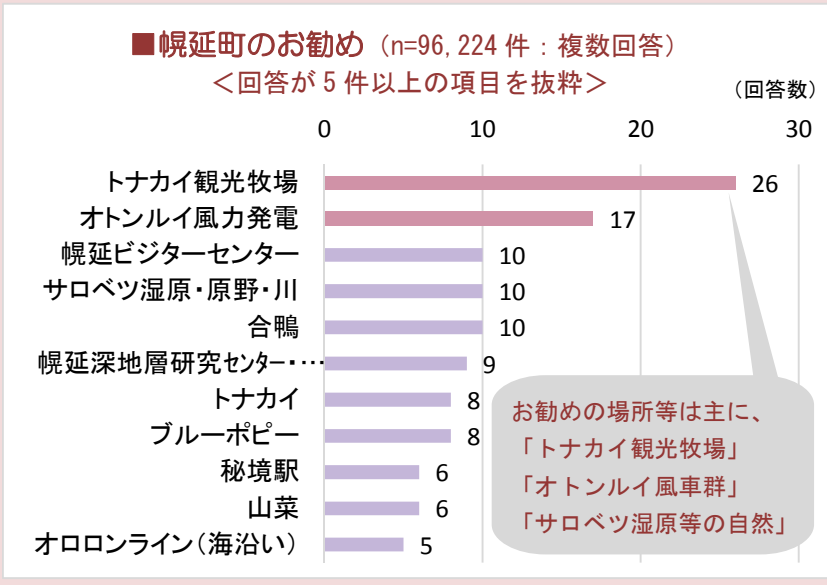


調査等	結果概要	地域振興（観光）計画に取り上げるキーワード	地域振興（観光）計画
観光入れ込み	<ul style="list-style-type: none"> ・H26 延べ宿泊者数約 12 万人。稚内市の 1/4 程度、宗谷で中頓別町の次に少ない。 ・北海道や稚内の外国人宿泊客は急増しているが、幌延町は 0 人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設が少なく、立ち寄り観光を推進。外国人観光も可能性有。 ・既存の宿泊施設の空き（土日等）を活用。さらに、民泊やキャンプ等の新たな宿泊サービスの検討。 	①既存施設の魅力向上 <トナカイ観光牧場> ①-1 観光客受入環境整備の推進 ①-2 トナカイのイメージを活かした演出（サンタの里、ワンピースとの連携等） <ノースガーデン> ①-3 美しく花を見せる花壇の整備 <幌延ビジターセンター> ①-4 自然を体感できるメニューの開発と提供 ①-5 木道等の環境整備 <オトンルイ風車群> ①-6 クリーンエネルギーや風車を体感できるメニューの開発 ②雄大な自然資源の活用 ②-1 北大天塩研究林を活用した教育型プログラムの開発と提供 ②-2 四季に応じた体験メニューの開発（山菜、鮭の遡上、バードウォッチング等） ③幌延らしい新しい観光の創出 ③-1 秘境駅等の鉄道資源を活用した観光振興 ③-2 サイクリングやカヌー、フィッシング、徒歩等の※クワイエットスポーツによる観光振興 ※エンジンなどの動力に頼らず自然の中で、騒ぎたてることなく穏やかに楽しむスポーツ ④幌延町と宗谷地域のゲートウェイ（関所）となる拠点の整備町民や多様な旅行者が集う拠点 ④-1 町民や多様な旅行者が集う拠点 ④-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点 ④-3 道や川など多様な移動の拠点となり、まちと宗谷地域のゲートウェイ（関所）となる拠点 ⑤地域特産品の開発 ⑤-1 幌延産牛乳のブランド化や幌延産牛乳の商品開発 ⑤-2 トナカイや合鴨の生産強化及び新たな商品の開発 ⑤-3 冷涼な気候を活かした有機野菜の産地確立 ⑤-4 湧水の活用 ⑥情報発信の強化 ⑥-1 動画等による情報発信の強化 ⑥-2 観光大使による情報発信の強化 ⑥-3 町内飲食店の情報発信の強化 ⑦幌延らしい滞在メニューの開発 ⑦-1 豊かな自然を身近に感じるキャンプ場の利活用 ⑦-2 酪農を体験する農家民泊の実施 ⑧冬の賑わい創出 ⑧-1 アイスキャンダル等による官民連携イベントの開催
トナカイ観光牧場	<ul style="list-style-type: none"> ・管理費 1,700 万。 ・入場者数は H22 に 55 千人。H26 は 47 千人。H27 は 46 千人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入場者数の増加を目指す。 	
町民アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・お勧めの場所等は主に「トナカイ観光牧場」「オトンルイ風車群」「サロベツ湿原等の自然」 ・今後観光に期待することは、「PR や知名度向上」「既存観光施設の活性化」「新たな資源・特産の開発」「目玉となる観光の開発」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「トナカイ観光牧場」「オトンルイ風車群」「サロベツ湿原等の自然」の活用 ・知名度向上や既存施設の活性化を展開 	
観光客アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・道内からの来訪者が 8 割を超え、ほとんどの方が車で来訪。 ・立ち寄った方の満足度は「名林公園まつり」「下沼湧水」「オトンルイ風車群」が高い。 ・7 割以上の方が、「トナカイ観光牧場」を来訪。 ・消費額は 5 千円以下が半数以上。 ・あってほしい観光サービスは、「道の駅」「入浴施設」が多い。 ・まちの魅力は「トナカイ」が最も多く、次に「自然が豊富・きれい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・トナカイ、トナカイ観光牧場の魅力や利用者満足度の向上。 ・特産品開発などによる観光消費額の向上。 ・「道の駅」等の新たな拠点の検討。 ・自然資源のさらなる活用 	
夏期／現地資源調査	<ul style="list-style-type: none"> ・トナカイ観光牧場は受入環境の評価が低い。 ・オトンルイ風車群は、幌延らしさの評価が高い。 ・幌延ビジターセンターは全体的に評価が高い。 ・下沼駅は鉄道資源のためどちらとも言えないが多い。 ・下沼湧水は情報発信の評価が低い。 ・パンケ沼は全体的に評価が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トナカイ観光牧場の受入環境整備。 ・幌延ビジターセンターの活用。 ・下沼湧水の情報発信強化。 	
秋期／現地資源調査	<ul style="list-style-type: none"> ・車の車窓からの風景は「どちらとも言えない」との意見が多い。 ・糠南駅、問寒別駅については、情報発信の評価が高い。 ・全体的に北大天塩研究林原生林の評価がとても高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北大天塩研究林原生林の活用。 	
第 1 回検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・冬のイベントが無く、冬期の賑わいが無い。 ・豊富町と違った生態系を見せるサロベツ湿原を、豊富町と連携しながら活用する。 ・地域食材を使用したご当地グルメ、B 級グルメを考える。 ・名林公園を名水公園として、遊び及び防災の拠点としてはどうか。 ・町内の飲食店について HP 等に情報が不足しており、わかりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携による冬期の賑わい創出 ・サロベツ湿原のさらなる活用 ・ご当地グルメの開発 ・名林公園のまちなか拠点化 ・飲食店情報発信の強化 	
第 2 回検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅を整備する場合は、町中に人を呼ぶ導線を一緒に考える。 ・道の駅に川の駅を併設し、カヌーイスト等も利用できる駅にする。 ・幌延の牛乳を活用したソフトクリームやアイスを道の駅で提供する。 ・井上観光大使のさらなる活用の検討。 ・問寒別の魅力掘り起こしと活用。 ・子供をターゲットとすれば、親も付いてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅をきっかけとした町中の活性化 ・川の駅など多様な利用者が集う拠点の整備 ・ソフトクリームやアイス等の特産品開発 ・問寒別の観光掘り起こしと活用 ・子供が楽しめる環境づくり 	
第 1 回 WS	<ul style="list-style-type: none"> <まちの特産品> ・幌延町で生産されるこだわりの食材を本格的なメニューで提供 ・トナカイ（肉の活用・角細工）や合鴨（広く周知・広域連携でのメニュー開発）の活用 ・新たな乳製品の開発や有機野菜の産地化、山菜狩りツアー、下沼湧水の商品化 <まちの拠点> ・お年寄りや子育て中の方、町民、観光客、カヌーやキャンプ愛好家が集まる拠点 ・まちの活性化につながる拠点 ・フリーマーケットやソフトクリーム等の特産品販売等、人が集まりたくなる工夫 <観光によるまちづくり> ・テツ（鉄道）、トホ（徒歩）、チャリ（自転車）旅に優しいまちづくり ・北大研究林やサロベツ湿原、パンケ沼などを活用した健康・スポーツツーリズム ・観光による“儲かる”仕組みづくり ・トナカイ観光牧場の活性化（ワンピース チョッパーとのコラボ、子供が遊べる施設へ） ・ビデオや動画による PR の強化（釣りクラブ、ワラベンチャーなど問寒別の PR 強化） 	<ul style="list-style-type: none"> <まちの特産品> ・トナカイ、合鴨の活用 ・幌延産牛乳の商品開発 ・有機野菜や山菜などの新たな資源の活用 <まちの拠点> ・多様な主体が集まり、町まちの活性化につながる拠点 ・フリーマーケットや特産品等の人が集まる工夫 <観光によるまちづくり> ・鉄道や徒歩、自転車の旅を受け入れる町 ・観光による「儲かる」仕組みづくり ・自然を活かした健康・スポーツツーリズムの推進 ・トナカイ観光牧場の活性化 ・ビデオや動画による PR の強化 	
第 2 回 WS	<ul style="list-style-type: none"> <まちの特産品> ・酪農家が主体となった幌延産牛乳の活用（第三者の評価によるブランド化、お菓子等の商品開発）。 ・下沼湧水の活用（豆腐や酒の開発、町内飲食店での提供）。 ・トナカイや合鴨を活用するためには増産が必要。 ・有機野菜の産地となり、農業を目指す若者の受け入れなどを進め、交流人口もを拡大。 <まちの拠点> ・案内所や車中泊ができる駐車場、温泉、町民憩いの場など多機能な道の駅。 ・トナカイを使った楽しいメニュー開発（聖地サンタの里になる、ワンピースとの関連付け、トナカイに愛称を付けてそれぞれのキャラクターを明確にする）。 ・今ある施設の活用を考えた拠点づくり。 <観光によるまちづくり> ・トナカイ観光牧場やノースガーデン等の既存観光資源の磨き上げ、町民が楽しめる環境づくり。 ・サロベツ湿原や北大研究林などの自然資源を活用した体験型観光を推進（町民が幌延を知る機会をつくる、ガイドの育成）。 ・湿原サイクリングやタカフェなど景観の活用、秘境駅から自転車で巡るツアー等、新たなツーリズムの創出。 	<ul style="list-style-type: none"> <まちの特産品> ・酪農家が主体となり、幌延産牛乳をブランド化、新たな商品の開発 ・下沼湧水の活用 ・トナカイ、合鴨の増産 ・有機野菜の産地化による交流人口の拡大 <まちの拠点> ・温泉や町民憩いの場など多機能な道の駅整備。 ・トナカイの魅力向上（サンタの里、ワンピースとの関連付け、既存トナカイの愛称付け） <観光によるまちづくり> ・既存観光磨き上げ（町民が楽しめる環境づくり）。 ・体験型観光の推進（ガイド育成）。 ・新たなツーリズムの創出（サイクリング、タカフェ等の景観、秘境駅ツアー等） 	

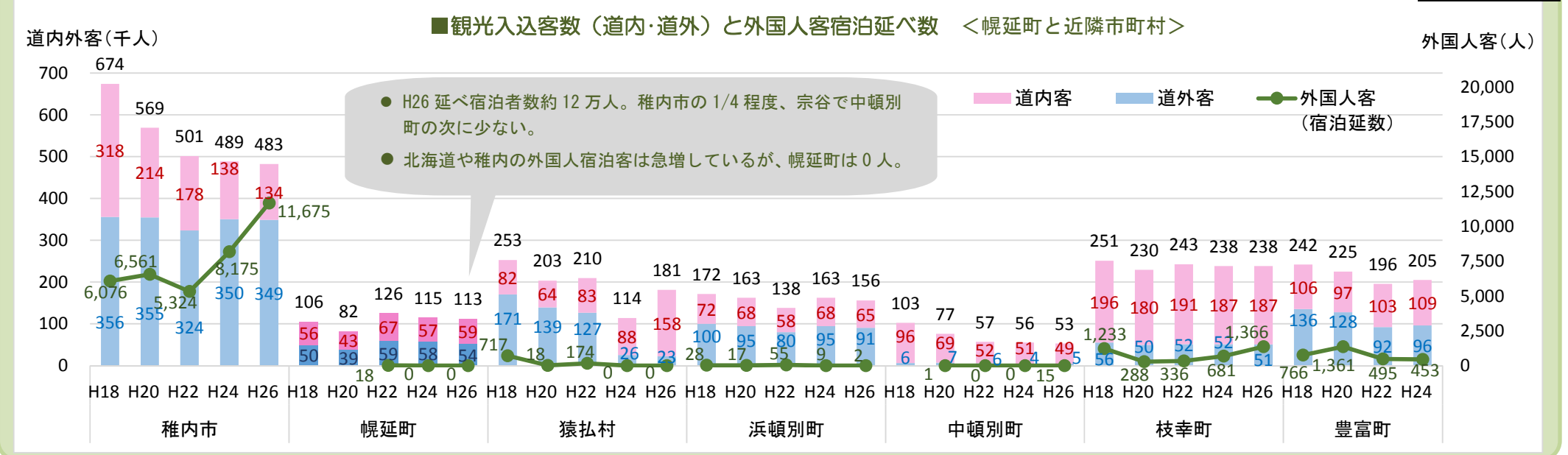
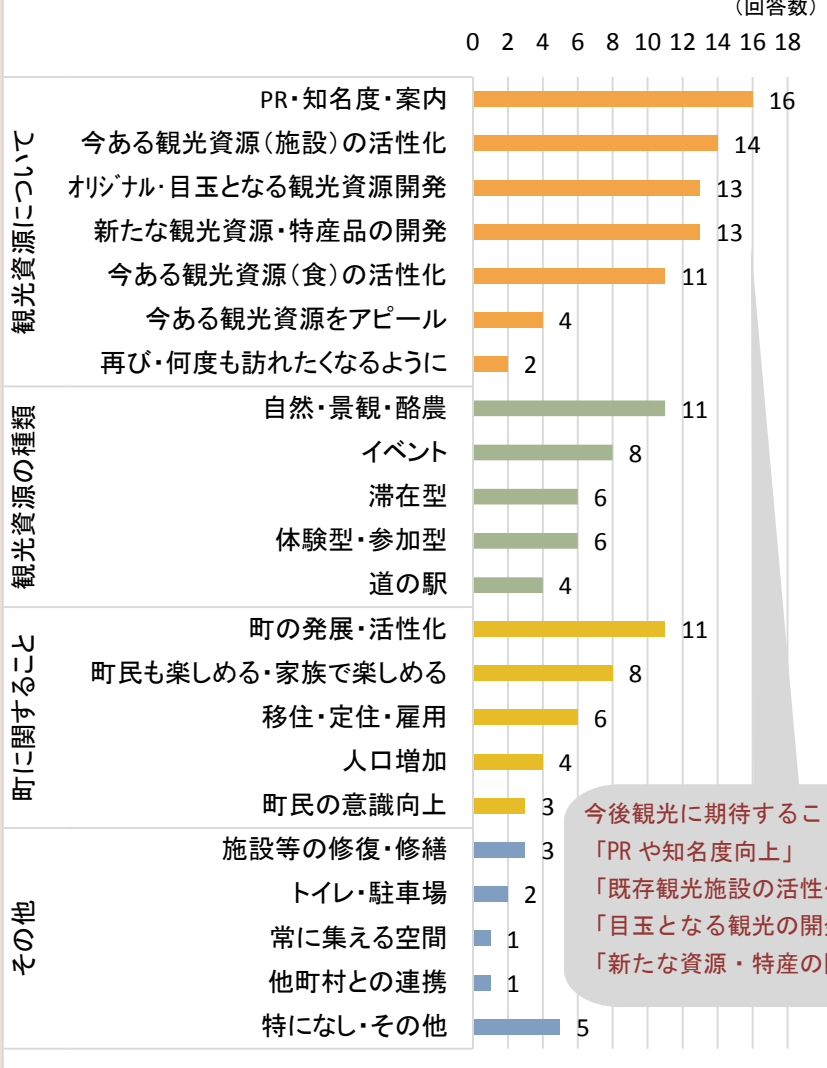
幌延町の観光入込客数とアンケート調査結果

幌延町の観光入込客数は、年間約 12 万人規模となっている。
 町民および観光客アンケートの実施は、それぞれ平成 28 年 6 月、8 月に実施した。

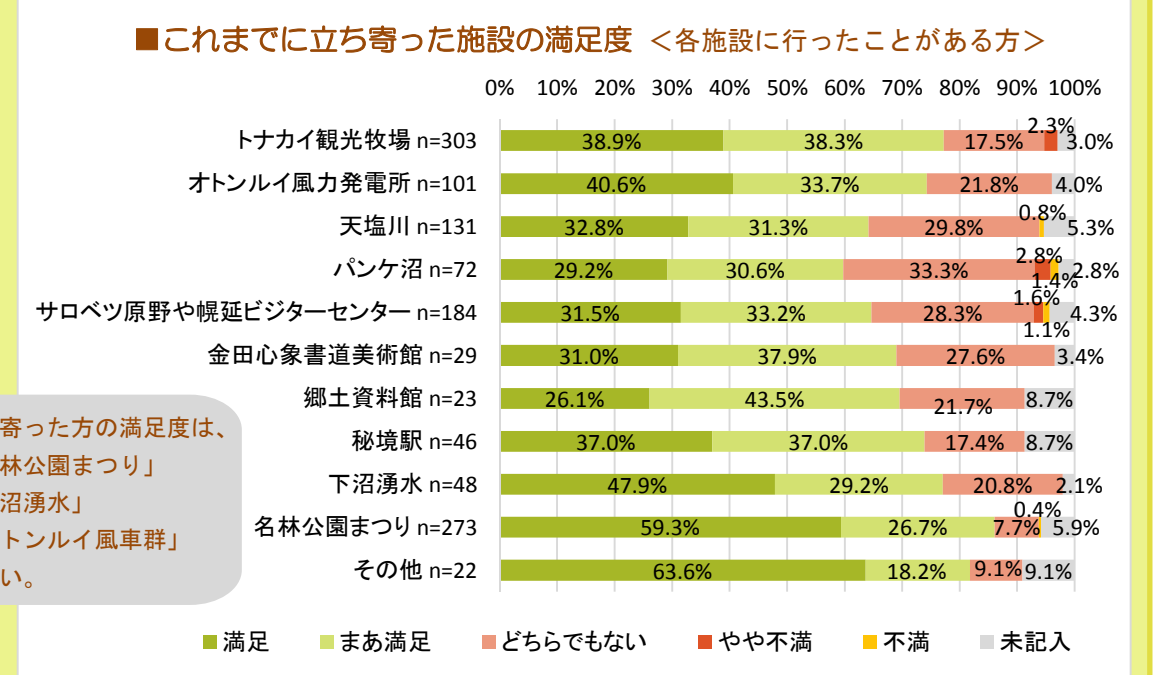
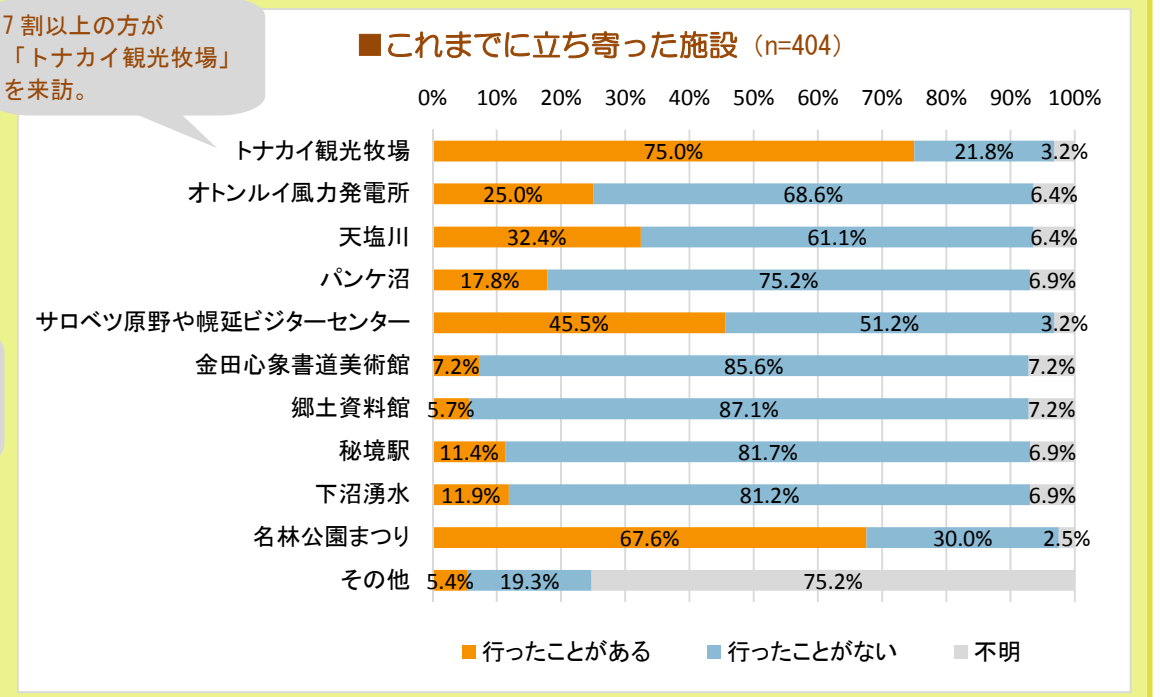
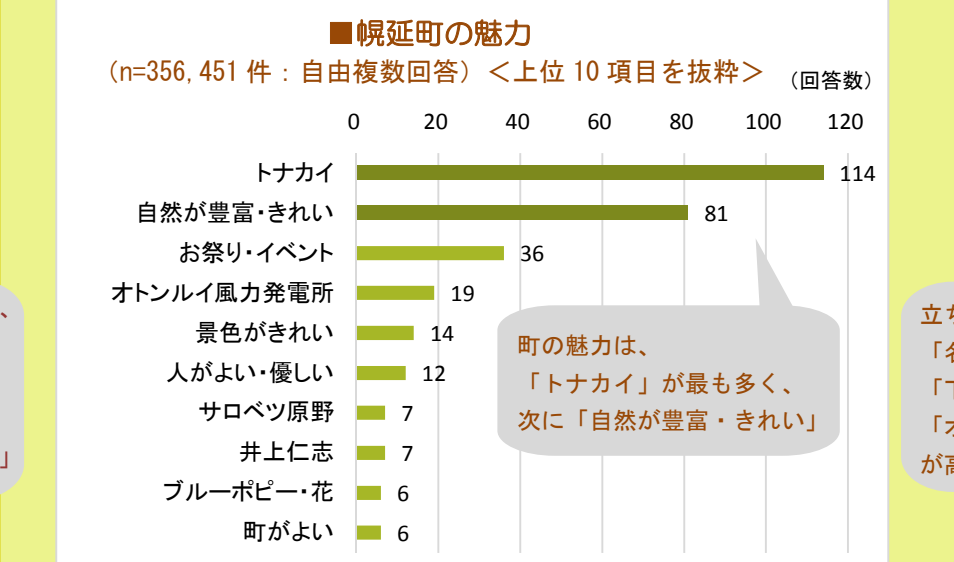
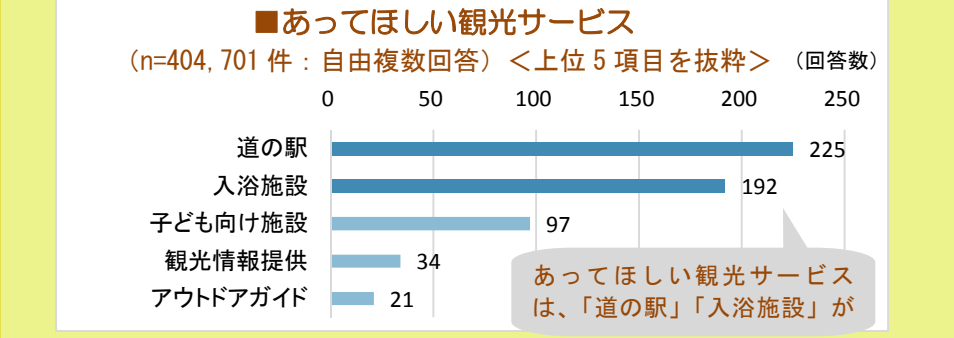
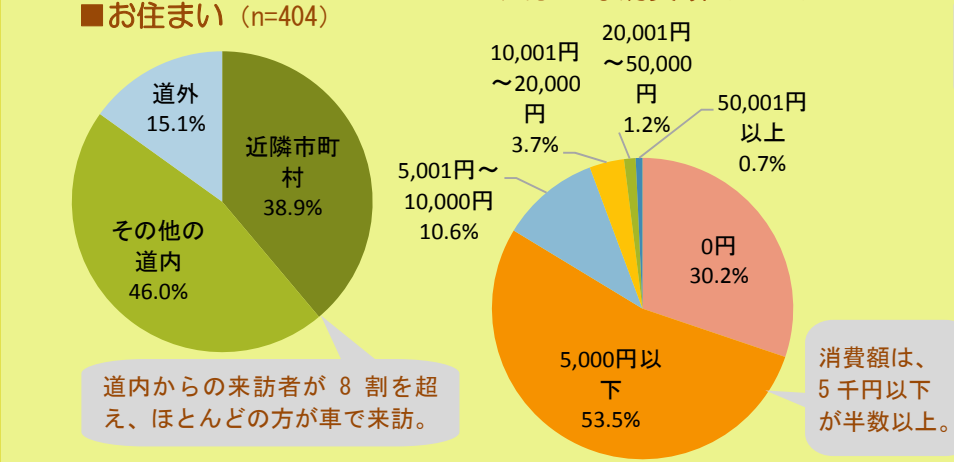
町民アンケート



■ 観光振興に期待すること (n=79, 152 件：複数回答)



観光客アンケート



幌延町地域振興（観光）計画では、「3. 基本的な考え方」において、幌延町が「目指す姿」について、戦略や施策を包括し、分かりやすく示す短い文章を掲載します。「目指す姿」については、「主題」となる文章、さらに主題を補足する「副題」を記載したいと考えております。

以下の、案を参考にご検討頂きますようお願いいたします。

《メイン 案》

NO	案	解説
1	「楽しい・美味しい・美しい」に出逢える北のまち・ほろのべ	幌延で体験できることを形容詞で表現
2	ホッとするホロノベ	温かさや癒しをシンプルに表現
3	北の平原に実るまち・ほろのべ	アイヌ語の「ポロ・ヌプ」（大きい・野原＝大平原）を活かして表現
4	北緯 45 度線に輝くマチ〜きっと素敵に出逢えるほろのべ	北緯 45 度の立地とともに、地域の輝きに出逢えることを表現
5	「宗谷の玄関ほろのべ」へようこそ！ N45° の風土を五感で楽しもう	地域ならではの資源を視・聴・嗅・味・触で楽しみ、北の関所であることを表現

《副題 案》

NO	案	解説
6	宗谷地域のゲートウェイを目指して	宗谷地域を訪れる観光客の関所を目指す
7	キラリと光るお宝を大切に	幌延にしか無い資源をお宝として磨き上げ
8	トナカイからの贈り物	幌延の特徴的な資源としてトナカイを表現
9	最北へのみちとひとが集うマチ	稚内方面へ向かう道や人が集う町を目指す
10	来る人・住む人が輝く町を目指して	旅行者・町民両者が活躍できる町を目指す

参考例

第5次 幌延町総合計画における将来像

- ・夢と活力に満ち 自然と共生する安心で住みよい町 町民一人ひとりが主役！

幌延町観光振興計画（平成9年策定）

- ・北緯 45° の風が吹く北のメルヘンランドほろのべ

ニセコ町観光振興計画

- ・ーいつ訪れても心身ともに健康で元気になれるー 居心地のいい町 ニセコ

京都市観光振興計画

- ・世界が憧れる観光都市